

伊東市新図書館基本計画、基本設計及び実施設計等業務プロポーザル審査講評

令和3年7月12日

伊東市新図書館基本計画、基本設計
及び実施設計等事業者選定委員会
委員長 中村 一人

1 現況及び施設整備の方針

現在の伊東市立伊東図書館は、伊東市生涯学習センター中央会館の館内にある複合施設として昭和55年に建設され、その後40年が経過し老朽化が進んでいるほか、開架及び学習スペース並びに駐車場の不足等の各種課題を抱えていることから、多様化及び高度化する利用者ニーズに対応するとともに、コミュニティ醸成の場の提供を目的に、図書館機能と生涯学習センター機能を併せ持つ伊東市新図書館として、整備することとしました。

伊東市新図書館建設事業は、市長公約事業として、これまでの間、地域タウンミーティング、未来ビジョン会議、図書館・文化ホール建設に向けた検討会、市民ワークショップなどを開催し、広く市民の皆様の御意見を伺う中で検討を進めてきました。これら機会でお伺いした御意見を踏まえ、①交流機能、②一般コーナー機能、③伊東市情報センター機能、④児童コーナー機能、⑤ティーンズコーナー機能、⑥生涯学習センター機能、⑦ICT機能の7つの機能を拡充し、新たな施設のコンセプトを「夢と未来を育む図書館～ひとりひとりの創造拠点～」とした伊東市新図書館基本構想（以下「基本構想」という。）を策定しました。

本基本構想に基づき、伊東市新図書館の基本計画、基本設計及び実施設計等業務を進めるに当たり広く技術提案を求め、その内容及び能力を総合的に比較検討し、委託するに最もふさわしい事業者を選定するため、公募型プロポーザルを実施しました。

2 審査の概要

本プロポーザルを実施するに当たり、伊東市新図書館基本計画、基本設計及び実施設計等業務プロポーザル実施要項（以下「要項」という。）に基づき技術提案を求め、提案内容及び業務遂行能力が最も優れた者を選定することを目的に、伊東市新図書館基本計画、基本設計及び実施設計等事業者選定委員会を設置し、合計3回の会議を開催して厳正かつ公平な審査を行いました。

本プロポーザルの募集に対しては、5事業者から参加申込書が提出され、5事業者に対し業務実績及び実施体制を含む技術提案関係書類の提出を求め、これら技術提案関係書類をもとに要項記載の評価項目に基づき第1次技術提案審査を実施し、技術提案関係

書類を提出した5事業者を第2次技術提案審査（プレゼンテーション及びヒアリング）の対象者として選定しました。

その後、第2次技術提案審査においては、対象となる5事業者によるプレゼンテーション及びヒアリング（質疑応答）を実施し、新たな評価をもとに審査の結果、本業務を委託するに最もふさわしい事業者を選定しました。

3 審査結果

(1) 特定事業者（最も高い評価を得た事業者）

有限会社マル・アーキテクチャ東京事務所

(2) 次点者

株式会社山下設計

4 審査講評

(1) 総評

今回の伊東市新図書館基本計画、基本設計及び実施設計等業務プロポーザルにおいては、単に図書館及び生涯学習センターの複合施設としての設計を行うものではなく、公共図書館としての利便性はもとより、ICTの利活用や新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた新たな図書館サービスの提供を見据える中で、伊東市新図書館のサービス計画・管理運営計画・施設整備計画・開館準備計画などを包含した基本計画策定業務を設計業務と平行して一体的かつ効率的に実施するといった、本市にとっては新たな試みでありました。

そのような中、5者の事業者が情熱をもって取り組まれ、熟慮され、種々工夫を凝らす中、本プロポーザルに御参加いただきましたことに大変感謝いたします。

第1次技術提案審査の結果、全5事業者が第2次技術提案審査（プレゼンテーション及びヒアリング）の対象者となり、プレゼンテーションを拝聴する機会をいただきました。全5事業者の提案は、それぞれに魅力がありましたが、設計プロセスの柔軟性及び次世代の新しいスタイルの公共施設づくりへの期待と可能性を秘めていると評価された事業者を特定事業者として選定いたしました。

特定事業者及び次点者に対する審査の概要は以下のとおりです。

ア 特定事業者：有限会社マル・アーキテクチャ東京事務所

本提案は、伊東市の魅力を市民自らが世界に向けて「創造」・「発信」する拠点として、伊東市新図書館を「国際観光温泉文化都市いとうのまちのミュージアム」に据え、市街地を中心とした市内全域に「にぎわい」、「癒し」、「憩い」を生み出すとする提案でした。

施設計画に関しては、基本構想に掲げる7つの拡充機能が存分に取り入れられ、図書館及び生涯学習センターのフロア内に「ひだ」と呼ばれる特徴的な放射状の壁を配置し、用途を分節化しつつフロア全体を構成する手法は、新規性が高いと評価されました。

防災・防犯面等で配慮すべきとの指摘もありましたが、今後、市関係部局・図書館、市民との連携のもとに、設計が進められることにより、市全体と調和が図られた「国際観光温泉文化都市いとう」のシンボルとなり得る図書館が実現する可能性が最も高いと評価されました。

イ 次点者：株式会社山下設計

本提案は、人が集い、憩い、活動し、交流が生まれる“まち・ひと・歴史をつなぎ育む創造拠点”をテーマに、基本構想や伊東市の地形、地域資源等について十分に研究された提案でありました。

施設計画では、「ITオリビング」と名付ける大きな吹き抜け空間を中心に、訪れる方々に回遊性を与える“大きなワンルーム”は、高評価を得ました。一方、曲面を基本とする構成には評価が分かれた結果、最も優れた提案には及ばず、次点者となりました。

(2) 結びに

本プロポーザルの実施に当たり、5事業者が伊東市新図書館建設に関心を抱いて参加して下さったことにつき、まずもって御礼申し上げます。基本構想を読み込まれ、本市のことを勉強され、また研究され、伊東市民の教育・文化拠点になり得るような夢のある提案を、時間をかけて作成して下さったことに対し、選定委員会を代表して、改めて感謝申し上げますとともに、今後の益々の御活躍を祈念いたします。

このような素晴らしい提案をして下さった皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、本事業を新しい伊東スタイルへの挑戦と捉え、市民の皆様と一緒に、みんなで創る新たな未来に向け、全力を挙げて進めていく所存です。